新入生の皆さんご入学おめでとうございます。これから始まる滋賀大学での学生生活に期待をふくらませているものと思います。皆さんのご両親やご家族もさぞかしおよろこびのことでしょう。桜も満開となり、皆さんの門出を祝っています。教職員一同、皆さんのキャンパスライフをしっかり支えていきます。大学や大学院で経験するさまざまな課題に積極的に取り組み、充実した大学生活を送ってください。

一方で、世界は未曽有の変化に見まわれており、先の見通せない状況が続いています。一つはもう三年間にもわたるコロナ禍です。もう一つはウクライナに対するロシアの侵略です。皆さんの未来、そして日本や世界の今後を語ろうとする時、これらの話題を避けて通ることはできないと思いますので、今日はまずこれらについて私の感じることを述べたいと思います。

まず新型コロナについてです。三年前の二〇二〇年の冬に突然始まった新型コロナウイルス感染は、大学の活動にも大きな影響を与えました。三年前の入学式は中止となりました。二年前からは入学式を再開しましたが、コロナ以前であれば新入生全員が一堂に会するところを、二年前からは三部に分けておこなっています。皆さんの高校あるいは大学での生活も大変不自由なものだったのではないかと思います。

ようやくコロナも落ち着きを見せ始めていますが、この三年間の経緯を思い出してみたいと思います。三年前の感染当初は滋賀大学でもキャンパスへの学生の立ち入りを制限し、教員は講義のオンライン化に追われました。その秋には、いったん小康状態となりましたが、二年前の二〇二一年の春には変異株であるデルタ株が流行しました。その後ワクチン接種が進み二〇二一年秋には感染者が急激に減りました。しかし昨年の冬に次の変異株であるオミクロン株が出てきて、また感染が拡大しました。昨年の夏には第七波があり、今は第八派が収束してきているところです。このように感染状況がめまぐるしく変化し、大学も対応に追われました。

幸いオミクロン株の重症化率は低く、昨年はある程度以前と同様の大学の生活を送ることができました。世界的にも、昨年秋頃から感染が落ち着いてきました。他の国と異なる対応をとってきた中国のゼロコロナ政策がこの冬に突然終了し、その影響が心配されましたが、いまのところ大きな混乱は起きていないようです。ワクチンや治療法も進歩し、一定の集団免疫も獲得されたことから、今後は「ウィズコロナ」という言葉に表されているような落ち着いた段階になることが期待されます。滋賀大学でもこの四月からは、適切な感染対策をおこないつつ、特に、活動の制限はおこなわないこととしています。

このようにコロナ禍の負の影響は大変大きいものでしたが、一方で、コロナ禍により社会の変化が加速されたというポジティブな面があることにも注目する必要があります。困難は進歩を生み出します。コロナ禍の中で必要にせまられて、大学ではオンライン授業がおこなわれ、企業では在宅勤務がおこなわれました。そして仕事の仕方が大きく変わりました。印鑑の廃止が一つの象徴的なことです。これらはデジタル技術によって可能となったことであり、コロナ禍によって、いわゆるデジタルトランスフォーメーションが急速に進展しました。また学生の就職活動も変わりました。コロナ前は、大都会にでかけて企業を訪問するという就職活動のスタイルでしたが、面接などがオンラインとなりました。これは実は地方大学の学生にとっては、都会の学生と比べて相対的に有利なことです。災いを転じて福となすという格言のように、我々はコロナ禍を乗り越えて新たな進歩を生み出していくのだと思います。

次に、ウクライナに対するロシアの侵略について述べたいと思います。昨年の二月二十四日にロシアがウクライナに侵攻してから既に一年以上がたちました。侵攻当初は数日でキーウが陥落するともいわれていましたが、ウクライナの粘り強い抵抗が続いています。戦争の悲惨な状況は今でも毎日のように報道されており、一日も早く平和が回復されることを祈っています。ウクライナからは多く人が避難し不自由な生活を余儀なくされ、滋賀大学も三名のウクライナの学生を受け入れました。ロシアによるウクライナ侵攻以前も、世界では様々な紛争や戦争がありましたが、私達は、それらは遠い場所での出来事で

あり、世界は平和だと、何とはなしに考えていたのではないでしょうか。しかしロシアによるウクライナ侵略の衝撃は大きく、突然その平和な生活が失われることがあるということを私達に示しました。平和は与えられるものではなく、積極的に守っていかなければならないものであるということを私達に示しました。ウクライナ侵略による死傷者は数十万人、避難者は数百万人と言われています。また私たちの日常生活においても、電気料金や食費の高騰などの物価高が進んでいますが、その主要な原因はウクライナの戦争であり、ウクライナの戦争は世界経済にも大きな影響を与えています。ウクライナの人々は、大きな犠牲を払いながらも、侵略と戦い続けています。ウクライナの人々にとっての平和とはどんな平和でしょうか。ウクライナの戦争の終結とその後の平和のあり方は、皆さんの将来にも大きな影響を与えると思います。私たちは、この機会に平和とは何かについて考え、ウクライナの戦争の終結とその後の平和を見届けたいと思います。

以上、現時点の重要な問題となっているコロナ禍とウクライナ侵略とについて述べてきました。ここからは皆さんが大学で学ぶことについて述べてみたいと思います。大学での学びと高校までの学びの一つの大きな違いは、正解があるかないかという点にあると思います。高校までの学びでは、入学試験対策という観点からも、試験問題を解くことに重点がおかれがちだったのではないでしょうか。それぞれの試験問題には正解があり、それを早く見つけるという訓練をしてきたと思います。一方で、大学で学ぶ学問では、多肢選択で選ぶような唯一の正解はありません。我々の生きている世界は複雑であり、現実の問題には唯一の正解はありません。例えば、コロナ禍の中でも、感染対策を重視するのか、経済活動を重視するのかで議論が分かれ、唯一これが正解というものはなかったと思います。また大学学部から大学院に進む段階では、問題自体を見つける、あるいは問題を定式化するという作業が本質的となります。大学では、短時間で答えを見つける必要はありません。皆さんそれぞれが問題意識を持って、社会や自然の様々な問題についてじっくり考え、その解決を考えて行っていただきたいと思います。冒頭にも言いましたように、世界は未曽有の変化に見舞われており、不確実性が高まり、正解がますます求めにくくなっています。そのような時こそ、大学での学びが重要になると思います。これまでの試験対策という頭を切り替えて、大学での新たな学びに挑戦していただきたいと思います。

最後の話題は昨今の急激な AI 技術の進歩です。皆さんもご存じと思いますが、二〇二二年十一月に公開された ChatGPT は、いろいろな質問にあたかも人間のように答えてくれる人工知能チャットボットで、大きな話題になっています。ChatGPT を使うと、レポート作成なども大幅に楽になってしまうため、大学教育の中でどのように扱うかは大きな問題になっています。実は、三月末のいろいろな大学の卒業式の学長式辞の中で、ChatGPT を試しに使ってみたというものがあり、話題となりました。この入学式の式辞で私も使ってみようかという気にもなりましたが、私のこの挨拶には ChatGPT は一切使っていません。でも使っていないということを証明することが難しいほど、ChatGPT はそれらしい答えを出してきます。そこで試しに ChatGPT に次のような質問をしてみました。「私のこの挨拶が ChatGPT で作ったものでないことを証明するにはどうしたらいいですか？」その答えはここでは紹介しません。紹介すると ChatGPT を使ったことになってしまいますので。少しややこしくなってしまいましたが、AI 技術の進歩も社会の未曾有の変化の一つであることは理解していただけたと思います。

このような変化の時代に直面した若い皆さんには、大きな可能性とチャンスが開けていると思います。滋賀大学の昨年度からのキーワードは未来創生大学です。世界が未曾有の変化に見舞われるなか、皆さんが滋賀大学で学ぶなかで、自分と社会の未来について考え、未来を切り開く人材に育ってくれることを願っています。

令和５年４月５日　　国立大学法人滋賀大学長　　竹村 彰通